

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890200148		
法人名	福井県医療生活協同組合		
事業所名	和の家 えがお		
所在地	敦賀市公文名1-6		
自己評価作成日	平成 29 年 11 月 27 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成29年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・併設された在宅総合センター和の協力を得ながら、理念である「あなたのえがおが見たいから」に向かって日々生活しています。特浴やリハビリ器具などの設備を借りたり、入居者の状態に合わせたADL体操や大勢でのレクリエーションに参加したりしています。又、理学療法士など多職種が在籍しているので、心配事を相談しやすい環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は敦賀市街南部の田園と住宅街が融合した自然豊かな場所に立地し、母体法人が病院や居宅介護支援、訪問看護、訪問介護、通所介護、短期生活介護事業所等を運営しており、利用者は安心して、医療・福祉サービスが受ける事ができる。事業所の基本理念、「あなたの笑顔がみたいから」を全職員が把握し、日々の利用者のケアに取り入れている。その為、常に利用者に寄り添い、笑顔で対応している。事業所は清潔に保たれており、また、食事の盛り付けや後片付けなど利用者ができることは職員と一緒にいき、充実感を持てるような支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この間、異動や入職も含め3人の新しい職員を迎えている。理念を玄関に大きく掲げ、意識できるようにしている。外出時のネーム入れの裏にも理念を記入し管理者、職員の目にとまりやすいようにして実践に繋げるよう努めている。	理念の「あなたの笑顔が見たいから」を事業所の玄関に大きく掲げたり、また外出時の職員名札の裏に入れたりして、日々意識を持ち、実践するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体が地域の一員として日常的な交流はなされていない。地区の年間行事の情報は頂くので、お手伝いの形で参加できればと考える。	地域の保育園に法人の新聞を掲示し、事業所の様子を発信している。今年度初めて、保育園の七夕、クリスマス会に利用者が参加し、地域の子ども達との交流を図ることができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現段階では、不定期に発行しているえがお新聞にて、健康面の記事を掲載し発信するに留まっている。えがお新聞の第7号は、立ち上げより初めて嶺南の医療生協組合員さんに向けて発行できた。地域の方々と交流する機会を作って関係性を作っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現状を報告し、各委員より意見をいただいている。今年度は近隣の診療所の看護師長が委員である為、医療的な面でも意見やアドバイスをいただいている。議事録を職員で回覧しサービス向上に活かすようにしている。	2か月に1度運営推進会議を開催し、出された意見に対して事業所の対応等を報告している。議事録は、請求書と共に家族に郵送している。意見は運営に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市から委託を受けた介護相談員2名が、定期的に訪問される。その際には入居者との交流もあるが、管理者より現状などを伝えて交流を図るよう努めている。	運営推進会議に市職員が出席し、事業所の実情やケアサービスの取り組みを報告し、アドバイスを受けながら協力関係を築き、サービスの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の対象となる具体的な行為についてはマニュアルからも周知している。家族と話し合い最小限におさえ対応している。	身体拘束防止マニュアルを作成し、職員も積極的に研修に参加している。家族と相談しながら、利用者の状況に合わせ、安全を第一に考えたケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設の施設での学習会に参加し、職員の意識向上につながった。気になる言動には気づいた時点で声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加しているにとどまり、職員への伝達学習には至っていない。現在、成年後見人制度を利用されている入居者もいるので学習をすすめていく方向である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	この間、加算変更があった。おひとりおひとりに説明しご理解いただくよう努めた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回アンケートにて意見をいただいている。面会時は家族と話すようにし、こちらでの様子を伝えながら、家族の要望も聞くように努めている。	普段の面会や電話連絡で、家族等の意見や要望を聞き取り、職員間で共有し実践に繋げている。また年に1回、家族アンケートを行い、家族の意見・要望を聞き、運営に反映させ、実践に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1~2回のペースで会議を開催している。業務関係に関する事や活動など意見交換や提案を発信する場を設けている。又、入居者に関する気づきや意見なども話し合っている。決定事項については職員全員で取り組む。	管理者は職員の意見に耳を傾け、意見や提案を言いやすい関係を築いている。その為、職員も働きやすく、笑顔で利用者に対応できており、利用者のケアにも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	主に管理者から代表者に対し、職場内の現状や職員の状況などを報告している。入職した職員には面接にて心配事や目標などを確認し、目標達成に向けて働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は制度教育も含め、年1回全職員受けている。月1回は併設の施設と合同での学習会があり参加を促している。法人外の研修については、業務として保証する事を視野に入れ参加を呼びかけている。参加した研修を伝達学習として職員と共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会し、研修や交流する機会を作っている。現状では、まだ職員の参加が出来ておらず積極的な参加を進めていきたい。管理者が他のグループホームに研修に行きサービス向上につなげようと努めてた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では、ご本人の訴えだけでなく、表情や行動にも注意し声掛けを行った。日中、夜間通して訴えのある時は、随時傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する事で共同生活が可能か心配されている 家人さんには、面会時に様子をお伝えしつつ入居前には知り得なかった情報を聞き取るなどした。他、遠方にお住いの家族には、電話にて様子や状態の変化をお伝えし家族のお話も伺い信頼関係を築くように努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後に生活する中で支援が必要とされる場合には、職員間で情報共有、意見交換、話し合いケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔でいる事や「共に」を大切に日々過ごすよう心がけている。生活の中のちょっとした雑用を入居者自らしていただいで助かっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こちらでの様子や、状態の変化はその都度お話しご相談している。家族のご協力も得ながらご本人が安心して過ごせるよう、又共に支えていく関係性になるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用されていた、併設の他事業所の職員や友人に会う機会を提供している。又、行きつけの美容院やスーパーでの買い物など馴染みの関係が途切れないよう支援している。	これまでの利用者の馴染みの人や場所を把握し、関係が途切れないよう努めている。併設のデイケアの友人に会う機会を作り、交流が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の交流に関しては、大きなトラブルにならないように見守りしている。入居者の表情や言動からも思いをくみ取るよう努めている。家事作業の提供も工夫しひとりひとりが役割を持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態が変化し、医療的処置が必要になった入居者が退居された経緯がある。現在は、関係が継続されていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを把握するよう努めている。又その思いに沿って支援するよう心掛け日々対応している。思いの表出が困難な方は本人の言動を観察し検討している。	利用者の思いや暮らし方の希望を、日々の会話や行動から汲み取り、職員間で情報を共有しながら支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には生活歴などを聞き取り情報収集に努めている。その情報をもとに本人と会話しながら新たな情報を収集していくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時に職員の気づきを共有したり関わりを持ちながら過ごす事で、ひとりひとりの状態や現状の把握をするように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成には本人や家族の思いを聴き話し合いながら反映している。又モニタリングを行い現状把握やサービス変更など検討している。	職員とケアマネジャーは、月1回モニタリングを行い、利用者の状況を把握した結果と本人・家族の思いを踏まえて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを含め日々の関わりを通して職員間で情報共有し、会議ではケアの実践や見直しの検討に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の施設で行われる慰問や体操、レクリエーションや行事など、大勢で楽しむ機会を作っている。又、本人や家族の状況に応じて美容院や受診の同行、送迎支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園の七夕まつりや、小学校のオープンスクールに訪問し交流を持った。他、物産展では入居者自身が自ら交流が持てるよう支援した。又、月1回開催される組合員むけの健康教室に参加している。歯科ボランティアの方は継続して来所いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時は家族と相談し対応している。かかりつけ医については、急な場合も相談できるような関係が出来ている。安心して医療が受けれるように、往診対応にした方もいらっしゃる。	協力医の訪問診療も可能だが、本人と家族の要望を優先したかかりつけ医の受診が可能である。受診内容は、医師と家族と事業所職員が情報を共有し、安心して受診できる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎日入り、入居者の状態を伝えアドバイスをもらっている。内服セットの他に入居者さんの状態により医療連携もしている。緊急時や夜間についても対応できるような体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院に際しては看護師と情報交換や相談を密に行い、早期の退院ができるように努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当者会議や、状態の変化があった時など話し合いの機会を作り家族の意向や思いを把握するよう努めた。こちらの職員体制や今の全体の状況もお伝えしている。地域の関係者とはまだ関係ができていない。	重要事項説明書には看取りの指針を掲載し、入所時には家族に説明をしている。重度や終末期に向けた支援の必要性を認識しているが、これまで終末期の対応をした事例はない。	重度化や終末期のマニュアルを作成し、本人や家族の要望を聞き、事業所と医療関係者との協議のもと、安心して取り組みができる事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生に備え看護師への連絡体制を整えている。又、年1回は救急法講習を全職員が受講し備えている。近々併設の施設と合同で緊急時ナース呼び出し訓練を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の施設の協力を要請する形での夜間火災避難訓練を行った。新しい職員の感想を聞き定期的な訓練の大事さを感じた。又、運営推進会議での意見をもとに連絡体制の変更が必要である。近隣に河川もある事から水害時の避難訓練も今後実施していかなければならない。	年2回、法人の火災時を想定した避難訓練を行っている。日中に夜間想定避難訓練も実施している。避難訓練マニュアル・連絡網を作成しており、緊急時の体制が整っている。	火災訓練以外の自然災害等の訓練や地域の協力を得た訓練が行われる事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり生活歴の違いもあり、習慣の違いもあるので、気分を書したり興奮に繋がらない様子を気をつけている。声掛けには注意して対応している。	利用者の人格を尊重し、利用者1人ひとりに合わせた声掛けや支援を行っている。また、法人全体で研修を行い、日々のケアの中で不適切な発言をした時は、管理者・職員間で注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段よりご自身の思いを口にされない方に関しては、入浴時や1対1になる場面において思いを引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の勤務職員と相談し、入居者の活動支援にあわせ休憩時間をずらすなどの対応をしている。地域の行事ごとには希望を聞いて負担のない程度に参加するよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は身支度の時間をとり、服選びなど入居者が迷っている場合については声掛けやアドバイスを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けに関しては、定着化している。不定期ではあるが、食事やおやつ作りと一緒にやっている。食事作りに関しては、入居者の状態に応じて作業を支援している。	利用者の身体状況に応じて、食事の盛り付け、茶碗拭き、後片付けなど職員と協力しながら行っている。お正月やクリスマスなどの行事食も取り入れ、食事から季節を感じ、楽しく食事ができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量が確保できるよう、ひとりひとりの好みだけでなく、温度や器も観察し摂取量が増えるよう支援した。夏場に食欲が落ち体重の減少があった方には、別メニューで対応し家族への聞き取りをし食事量が増えるように取り組んだ。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後と夕食後には、口腔ケアを行っている。出来る事を奪わないよう、見極めて口腔ケアを支援している。抵抗のある方には状況に応じて介助や見守りを行っている。ボランティアの方にも協力をいただき口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある方には自分から交換を意識できるよう声掛けを行った。交換や後始末についても自身で処理できるように物品をそろえるなど支援した。	利用者の個々の排泄パターンを把握し、時間帯や身体状況など、個々の状況に応じた対応や言葉かけを心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて確認の仕方は違うが、排便チェックを行い形状や量についても申し送るようにしている。冬場になり乾燥も一つの要因と捉え、室内環境に注意するようにした。バナナや牛乳など排便を促す食べ物を提供するなどして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の本人の状況により、入浴に抵抗ある場合は無理に行わず別日にしたり、時間をずらして再度声掛けしている。又、選択肢を提供する事で入浴につながる場合もある。	週2~3回、個浴での入浴を基本にしている。リフト浴対応もしている。入浴剤を入れるなどして、気持ちよく入浴できるよう心掛けている。入浴拒否がある場合は、声かけを工夫したり、日にちを変えるなどの対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日通して居室へは自由に行き来している。不穏な方には無理に臥床をすすめず様子を見ている。就寝前には興奮しないよう訴えに傾聴し対応するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服変更時、薬情報を確認し副作用についても把握するよう努めている。変更になった事で状態の変化がないか観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お天気の良い日は少しの時間でも、散歩やお洗濯もの干しをするなど外気にふれる機会を作るように努めた。食事量の少ない方に関しては買い物と一緒にいく事で自分の食べれる物を購入するなど個々に応じて支援に努めた。全員が一度に同じ事を行うのは難しいので個別に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前から希望のあった市外の「たけふ菊人形」や「はなはず公園」への外出ができた。行きつけの美容院へ行く際は、タクシー会社や美容院と連絡とり混乱なく外出できるように支援した。	天気や利用者の体調に合わせ、散歩やスーパーへの買い物など外出支援を行っている。年間行事では利用者の希望を聞き、「たけふ菊人形」や「はなはず公園」など少し遠方に出掛け、季節を感じたり外へ出る楽しみを味わえるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いが可能な方には外出時にお財布を所持していただいている。個々の力に応じて、支払いされる方もいる。金銭はこちらで管理し月末には残高確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お知り合いからの電話はつないでいる。この間、同じ職場であった方より電話が入りつないでいる。暑中見舞いや年賀はがきを毎年家族あてに送って近況を伝えている。ひとりひとりの力に応じて自身の記名をしたり、文章も自分で考えている方もいらっしゃる。家族からも折り返しお便りいただく方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者同士の関係性に配慮し座席を設けている。季節が感じられる様に、窓に手作りの飾り付けをしたり、花などを飾って季節感を出している。その日の天候により廊下や他共用空間が暗く感じる日があるので状況に応じて明かりをつけている。冬場は乾燥しやすいので加湿器、空気清浄機を使用し温度、湿度の管理をしている。	共用空間は清潔に保たれ、温度、湿度の管理も適切に行われている。ホールや廊下には季節が感じられるよう、季節の花や手作り作品が飾られ、温かで家庭的な雰囲気、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂でのテーブルの配置については、利用者同士が思い思いに過ごせるように気配りしている。入居者同士の関係性にも配慮し、対立することのないよう工夫している。座敷の有効的な利用を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にてひとりの時に不安がないよう、本人の習慣に合わせて可能な限り、好みの物を持ち込んでいただいている。家具の配置も使いやすいように、危険のないように居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は風通しが良く、匂いもなく衛生面に配慮した造りとなっている。また、利用者の馴染みの家具を持ち込み、使いやすく配置され、居心地良く過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは他の扉と同色の為、マークを付けて表示している。又、理解しやすい単語で声掛けをしている。		